

ダムの効果事例について①

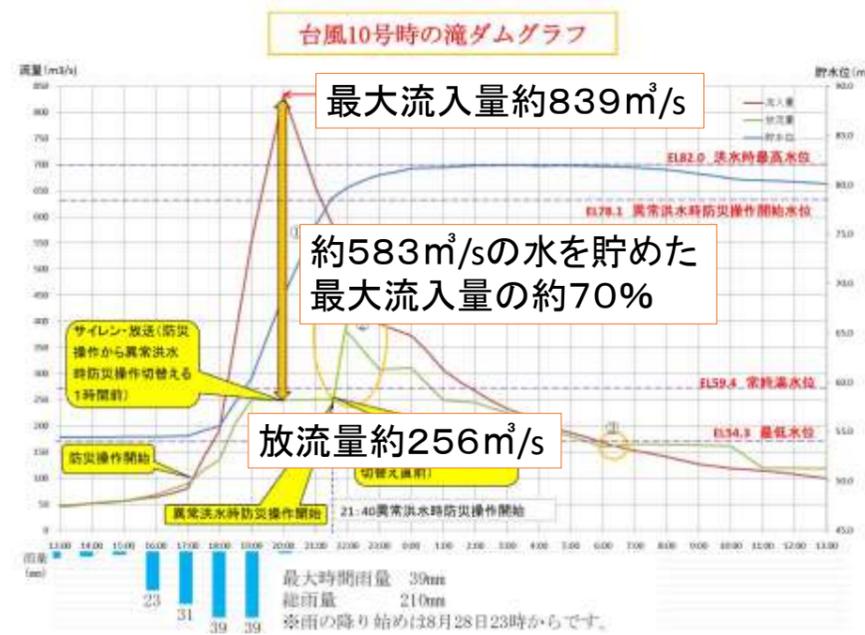
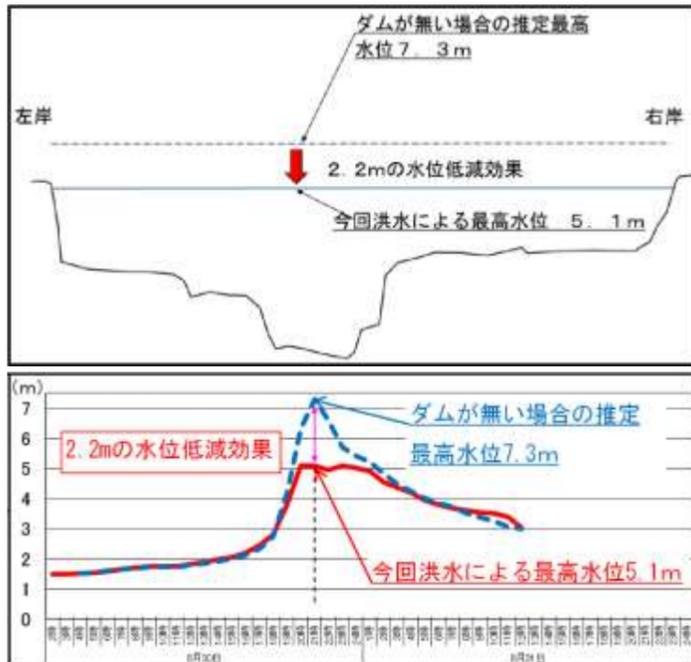
平成 28 年台風 10 号における滝ダムの事例

滝ダムは、岩手県久慈市、一級河川久慈川水系長内川にある重力式コンクリートダムです。平成 28 年 8 月 30 日から 8 月 31 日にかけての台風 10 号による大雨により長内川の上流域で大規模な出水が発生しました。滝ダムには、これまでの最大流入量の 2.3 倍となる流入量約 839m³/s が流入しました。滝ダムの洪水調節によって、最大流入時の放流量を約 256m³/s に調節し、下流河川の水位低減を図り、下流の久慈市街地（長内橋地点）では氾濫危険水位まで達したものの、護岸溢水には至らず浸水被害を防止しました。



滝ダム位置図

滝ダムが存する長内川は、久慈市街地で本川と合流しています。



滝ダムの流量ハイドログラフ

滝ダムによる水位低減効果（長内橋基準点）
 長内橋の水位は、仮にダムがなかった場合、今回の最高水位より 2.2m水位が高く 7.3m となり、溢水していたと推測されます。



（左写真）久慈市街地の浸水区域（赤着色の部分）久慈川からは浸水があったものの、滝ダムがある長内川からの浸水被害はなかった。